

刊夕 日卅月九

常磐每日新聞

定価 一ヶ月金五拾五圓 郵費五圓
 廣告料五號十二字第一行金五拾圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

信疑の一念を離れよ

真繼 雲山

俗間に於て信仰とし言へば、多く手を合せ、たびたび参拜することであるとす。『棒はど願へば針はど叶ふ』古諺を活用して、息災延命諸願成就から五穀豊熟、商賣繁昌などと盛り澤山に要求箇條を提出し、斯くて多くを願ふほど御利益も多からうと考へてゐる人がある。斯かる必要の祈願といへども、神佛を否定する無信の徒にまさること萬々であるが、萬一叶へられぬときは神佛にヒマを出さねばならぬ結果を生じ、果たしてそれだけの効能ありやも疑

秋日集

島田忠夫

秋の日の泌むばかりなる草の色蝶はあはれに飛びゆきにけり
 いささかの露にぬかふす秋海棠のともしき花をあはれみにけり
 秋の日の光かなしもはかなかる吾が病み妻を死なしむなゆめ
 かりがねの渡れる空よ降りそゞぐ天つ光もすでにかすけし
 おもほへば命かなしも野にみちて鳴く蟲ごろも日々に衰ふ

問である。

然らば佛様を頼むは誤りかといふに決して然らず、正しき信仰の頼みは必ず聞き届けられるのであり、たのんだ時が助けられてゐる時なのである。

汽車は脱線し衝突するかも知れぬが、先づ「大丈夫であらうと、大枚金をほり出して大切な命を乗托するといふのは、汽車を信用してゐるからであり、左様に信じてゐる乗客は「汽車よ無事に運んでくれよ」と手を合はして頼む馬鹿はない。信じ切つて乗つたからには、殊更ら頼まずとも運搬してくれるのであり、信任する事と運搬せらるゝ事とは同時同義である。如

は同時同義である。

萬葉集の戀歌の内に
 もろちたび戀ふといふ
 もろち等が
 練りの言はし我れば信

とあつて、信の字を書いて「たのむ」と訓じてある。佛教でなき戀でさへも、信ずる事と頼む事とは一つであつたので、初めから思し召すは徒勞であり敗るゝや明らかし。

たのむといふは梵語に直せば南無であり、漢譯して歸命となる、歸命とは倚りかゝり、招托することであり、佛様のふところに飛び込むことである。信じきつてゐないことは、あぶなつかしくて飛び込めるものではないから、南無し、歸命し、たのむといふからには一切萬事、餘念なく信じ切つてをらねばならぬ。佛の慈悲を信じて毛ほども疑ふところなくば、今更ら水臭い要求の必要はなく、然るを要求的な祈りを盛り澤山に捧げるといふのは、佛を疑ふぶしつけな態度であつて未だ救はれてゐない證據である。

信ずると頼むとは同時同義であつて、既に疑ふ心なきゆゑ、要求する必要もなくなつた時が救はれた時である、この故に信じたときが救はれた時なので、それはけがれた凡夫の妄情を運ぶ必要の無くなつた時を意味する。



ふたり

木津 茂太郎

○芍薬あかくて露の中
 ○小さな霧に床屋の灯がともつてゐる
 ○末枯の山に来て本を讀んでゐる
 ○しづかにて蚊帳は
 ○遠い山櫻に娘が子守してゐる
 ○子をおぶつた娘が子の手を引いて倉の晝下り
 ○霽町が朝になつてゐる
 ○雪のゆうべとなり倉にふる雪です
 ○となりにときをきく山家の夜で
 ○尺八ほろほろと寝てゐる
 ○なみがしらくよせしらくよせ

御料 鹽 豚

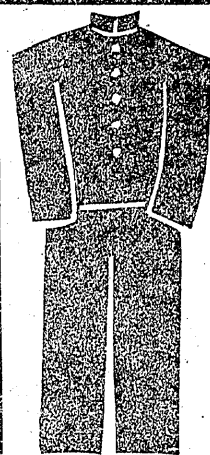
町田 三三三 屋

電話三三三番

學生服賣出

温かい丈夫な黒小倉通學服を豊富に取揃へて提供

小學用(長ズボン付) ¥0.80
 全……特製品 ¥2.00
 中學用特製品 ¥2.90



ふかや洋服店 平二 電203

盛花 臨時講習會

一、講師 先崎曠山先生

一、日時 來月十月二日(日曜) 午前九時ヨリ午後三時マデ

一、場所 平町南町看護婦會清野キヨ氏方

一、講習要目 イ、華道ノ濫觴 ロ、華道眞理 講話 ハ、立華説明 ニ、投入

ホ、生花 ヘ、盛花等ノ圖解 ト、直眞型 チ、半傾斜型類

リ、二ツ眞型類 ス、投入類 ル、自然本位 ヲ、水草本位類

一、會費 金壹圓也

一、準備 當日開會前會計ニ納付ノコト

1、花材料ハ本會ニ於テ用意シテ置キマス

2、材料代ハ別ニ申受ケマス

3、手帳、鉛筆又ハ萬年筆、鋏 花器御持參下サイ(花器ハ階圓形ノ水盤ノコト)

内科 難波 睦

電話五〇二番

平町新川端(釜屋新宅向)

醫學博士 難波 睦

昨日の四倉商市場 六十圓を突破

開所以來の最高レコード 此の大飛躍に場内外熱狂 植田も高値を呼ぶ

四倉商市場廿八日の取引は降雨の爲め取引を見なかつたが昨廿九日は晴天候回復した結果俄然出荷集中し白蘭九百五十五貫を算するに至り然も値段は最高六十一圓八十錢、最低四十五圓七十錢、馴五十三圓四十錢と云ふ本年開所以來の大飛躍を示した一方都南植田商市場の晩秋蠶も愈よ去る廿八日より開場し當日白蘭二百八十二貫、最高五十七圓七十錢、最低四十二圓五十錢、馴五十三圓、掛目四十八掛を見て是れ又近年にない高値を現出したと

郷土讀本

改訂委員が...

けふ參集協議

本讀土郷

平町各小學校郷土讀本改訂委員は本日午後一時より平第一小學校に於いて開かれたが出席者は坂内伊貞、金澤邦男、新家芳美、鈴木康大和田祐之、上川恒平、荒忍、長谷川榮の各訓導にて改訂事項は左の如くである

役員決定

木炭移出組合

植田女教員會

石城郡女教員會第一區植田町方部では去る廿八日午後一時より植田小學校に於いて懇

華道講習

講師は先崎氏

十月中旬頃双葉郡浪江町に開催する事になつたと(會長)鯨岡義助(副會長)草野米彌、志賀嘉吉(幹事)鹽谷雄周、渡邊重三郎、杉本豊松、今野昇、西彌助、高原甚藏

平町南町清野看護婦會では來二日午前九時より午後三時迄先崎山氏の盛花自然投入の臨時講習會が開かれた、會費は一圓で華道の鑑賞より極意の眞理に至るまで實際に應じて懇切丁寧に講義すると一般來會歡迎

江名衛生受持

石城郡江名町字中ノ作衛生組合

では來る五日組合長方に於いて秋期衛生掃除の役員受持區域に就いて協議する

圖畫手工展覽

平第二小學校

では來月二十八、二十九の兩日全校生徒の圖畫及び手工の展覽會を催すと

教育品展覽會

濱三郡教育品展覽會は本年十一月月中旬双葉郡富岡小學校に於て開催されるが來年は平町第一小學校に於て開催すると

好間果樹見學

石城郡好間村字下好間果樹組合では來月三日赤井果樹組合員の梨畑を實地見學する筈

いはらき異動

いはらき新聞平支局記者大内潜藏氏は銚田へ、同小幡篤輔氏は大子へ何れも支局長として榮轉と決定、尙ほ平支局には下館支局の赤津記者が來任すると

補習學校講習

平商業學校にては來る十月六七の二日間相馬農藝學校に於いて開れる本縣補習學校男教員實務講習會に係教諭を出席せしむる事になつたと

平映畫界

回平館 松竹ニユース、日活作品、小泉嘉輔主演『艶笑大平記』日活時代劇 澤田清、櫻井京子主演『杖立騒動』松竹現代劇 川崎弘子、竹内良一主演『天國に結ぶ戀』

回世界館 新興時代劇、嵐寛壽郎主演『なりひら小僧』新興時代劇『二人の傀儡』不二現代劇 鈴木傳明、英百合子主演『熊の出る開墾地』

平百面鏡

三井商報

顧客に配布

平町三丁目三井呉服店にては明一日から秋冬格安品の大特賣を開始すると日頃の顧客に「三井商報」第一號を配布したが夫れに依ると値段は左記の如くで昨今騰貴の趨勢にある呉服物が例も昨年と同値或ひは昨年以下になつて居り勉強振りが判る

(江戸樓)普通品廿圓より上等品五十圓迄(羽二重紋付)十圓より廿四圓迄(美さを御召)廿圓より卅圓位(新柄銘仙)平織が三圓八十錢より六圓五十錢御召四圓五十錢より八圓五十錢(着尺モスリン)三圓卅錢より四圓二十錢迄

高野商店

自轉車部併置

平町田町洋食器食糧品高野商店は先般類焼の厄に遭遇したが改築も成つて先般來開業新らたに自轉車部を設け新品多數陳列取り分け小兒用の自轉車や三輪車が格安とあつて飛ぶ様に賣れる

鯉節と鹽辛

平町四丁目丸市屋魚店の新發賣、磐城名産として知られて居る鯉節及び鹽辛は贈答物や土産品として好適品で、と好評噴々

専門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではありません
平町南町六五

川井内科診療所

醫學士 川井重之
女醫 川井安子

江戸前料理 倉巻

秋の味覺
松茸料理始めました
ぜひ一度御試食下さい
出前!迅速!
錦水
電話四五四番

市原醫院

平町田町(電話一一四番)
内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋病 市原三三男
入院隨時

外科

専門 光線 X
科線
上田外科病院
平町南町
電話一二九番

平町商況

相場は騰つても 高く賣れぬ悩み

前仕入が品薄になるとき
當然来るべきは物價騰貴

對外爲替の暴落によつて物價は依然急騰を續けて居る此際平町の實際商況を見ると、需要者側が「物價騰貴」の呼び聲に驚いて尻込みの態、従つて商況緩慢の境を脱する事が出来ない、而し事實は商店側も現下の不況時に在つて前仕入の安値品が在庫して居る内は、成るべく早く夫れを賣るといふ方針で、騰貴はして居ても實際には高く賣れない悩みがあり算盤を握つて右顧左への姿である、而し現在の相場が續いて、前仕入が品薄になれば、當然次ぎに来るべきは「高騰」であり従つて景氣も多少盛れ上るものと見られて居る

意外に多い

失業労働者登録

何れも家族を五六名宛

既報平職業紹介所の失業労働者登録は去る廿八日より三日間の本日迄を以つて

縮切する筈であるが同

所では登録定数を百五六十人と見て居た處本日午前中迄の申込者は遙かに豫定数を越えて二百五十七名と云ふ多數に達し係員を驚かして居るが登録者の年齢は最低十八才の少年から慶應生れ六十六才の

老人迄

あり其の内獨身者は七八名位に過ぎず他の二百餘名はいづれも平均五六名の家族を抱へて居ると

ので昨廿九日午前九時より四丁目の松本愛造氏方に役員遠藤心光、岡田政治、丸山勝三郎、三井宗吉氏等十七名が参集、未納金整理に就いて協議をなした

本社長の 放送題名

既報川崎本社長の来る五日午後六時から名古屋放送局に於ける放送童話は題名を「腹の中の虫」と決定された

全国を股に掛けて

無銭飲食で歩く男

前科九犯の強か者

平町白銀町一二飲食店北郷トク方で去る二十八日午後九時頃より職人風の男がドン／＼御馳走を運べと獨りで午前二時頃迄飲んだ揚句金は一文も持つて居ないと判り平署に突き出されたが

同人は相馬郡小高町字大井原七〇生れ仕立業渡邊菊次郎(九)と稱し前科九犯の無職飲食常習犯で今迄各地を全部無銭飲食で渡り歩いて居た男であると

下宿人の

衣類を入質

石城郡小名濱町字古港竹内茂右衛門(五)は本月十日下宿人の東京市外中野町の興

居た男であると

火薬庫へ

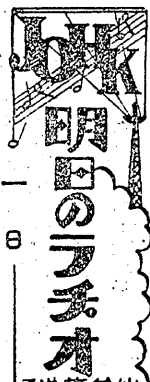
雷管を盗出す

石城郡内郷村大字高坂字宮三六土工猪瀬徳太郎(三六)及び瀧一九富田久藏(三三)の兩名は去る廿六日夜九時頃磐城炭火薬庫に忍入り雷管用ケース七百四十枚を窃取

太子堂

未納金

平町仲間町九品寺境内に八月中建築落成した太子堂の寄附金は其後未納者が多い



明日の天気

今夜は南東の風曇り明日は西の風晴れたり曇ったり

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
兒童歌劇「氣みちか殿様」
北村兒童歌劇協會
後七、三〇 長唄名曲演奏
蝶花樓馬楽(愛宕山)桂文樂(意地くらべ)柳家小さん

明日の部

後九、三〇 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告
前九、一〇 料理献立
前一〇、三〇 婦人講座
「趣味の大東京」千葉胤明
後〇、〇五 合唱と管絃樂
(新交響樂團練習所より)

父兄の總會に

遊戯とダンス

平第二小學校にては来る十月三日同校に於て開れる父兄總會の當日午後一時より遊戯及びダンスの會を催すと

平裁判たより

△安達郡二本松町生れ目下住居不定無職前科五犯佐久間吉之助(五)が平町字大町藤田屋旅館、湯本町字三函二百三十六番地備中屋に於て金銭飲食した事件の公判は本日午前九時より平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢察事及び吉田書記立會の下に開廷事實取調への上拘留されたが次回公判期日は來月五日午前九時であると
△石城郡好間村大字下好間字手倉八番地蹄鐵業高野彌平(五)同郡夏井村大字下大越字南横手百二十九番地荷馬車挽小林昇(三)平町字八保町二十六番地荷馬車挽鐵木金一(三)の三名は十丹賭

明日の裁判所が休み

司法記念日に當り

平區裁判所にては明日司法記念日に當るので休日と爲し午前十時より詔書奉讀式舉行後法曹關係者一同にて祝宴を催すと

無免許の周旋

石城郡湯本町字三函居住無職山

訴された

中繼(合唱)オカ、オア合唱團
後二、〇〇 婦人講座「新に編入せらるる新東京の名所舊蹟」(一)谷口梨花
後二、二五 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」(法政對帝大一回戦)
後五、三五 郷土藝術講座「奥羽地方に於て生産される郷土玩具と副産業生として價值」(一)有坂與太郎
後六、〇〇 子供の時間
お話と齊唱(お話、大東京のお誕生)東京市教育局長・藤井利學、齊唱、東京市歌、東京市清和少年團
後七、三〇 講演(大東京實現記念)内務大臣男爲山本達雄、東京市長、永田秀次郎
後八、〇〇 長唄新曲「都の榮」吉住小三郎外
後八、三〇 新講談「江戸城明渡のいきさつ」伊藤痴遊
後九、三二 (滿洲より)小學生の歌

博を爲し彌平は罰金四十圓昇及び金一は各罰金二十圓宛に本日平區裁判所に於て各々略式命令を以て處分された

平職業紹介所報告

回求人部
△ミン見習 十七才 尋卒 仕着小遣(東京市某)
△雜役 二十五才 尋卒 給料面談(四倉町某)
△納豆製造見習 十八才 尋卒 四圓位(平町某)
△店員 十八才 尋卒 三圓位(平町某)
回求職部
△女中 二十四才 尋三 給料面談(赤井村某)
△自動車女助手 十九才 高卒 給料面談(平町某)
△車力 五十才 尋四修 給料面談(平町某)
△女中 四十五才 無學 給料面談(大野村某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第一百六十四席

女流劍客里見靜枝

靜枝要介の對面

秋山要介は下谷阪本の杉山五郎兵衛方にて病氣の療養をして居る

要「五郎兵衛貴様が道場へ出て門人に稽古を付けてゐる處を見ると羨ましいよ、この左の腕がうなるので、どういふわけで中風なぞといふこんな病に取りつかれたか、残念千萬昔丹羽長秀が癪にて甚しく惱み最早餘命幾許もなしと知り武士が病で死ぬは恥辱だ、又俺を苦しめる癪の虫はどんな形をして居るかそれを見た上斬つてくれると腹を割いてその虫を掴み出したが、龜のやうな形をいたして居つたさうだ、其時長秀は俺に苦痛を與へる憎き奴とそれを脇差にて刺殺し脇を壁に投げ付け死んださうだが、英雄の最後はかうあり度いものだナ、俺も此の右の脇腹を切つて半身を苦しめる中風の蟲を掴み出してくれ

五「先生そんな得短氣をなさいますな、人は病の器といふ譬へもございませぬ、王侯貴人なればとて病に打勝つことはなりましたまい、まづゆるく御養生遊ばせ



其内に何とかなるでございませう」
要「それは死ぬるか生きるか二ツの中、一ツにてけりがつくであらうが、床の上には居るは退屈だ、それに俺は讀書が嫌ひでそれゆゑ無聊を感めるものがない今

して遣る」
止めるも聞かず道場に來て竹刀を提げ其處に居る若侍を見渡し
要「今日は杉山の代理に俺が教へてやるさア參れ」
○「御病中にそのやうな事をなされてはお宜しくありませんまい」
要「それはお宜しくなからうが寝てゐるも退屈だ、床の上にて身體のくさるを待つは恥だ、夕に道を聞き且に死すとも可なり、斯道の爲に捨てる命で死ねば本望だ、ソレ打つて參れ」
左に取りし竹刀をピタリとつけたが流石名人の事と

要「さうかな、それではまだ俺は死ぬまい、それほど勇氣があれば大丈夫、あゝ好い心持だ、竹刀を持つた爲に心地もすがら、致した、コレ何だ、誰か參つたか」
五「千葉周作先生が見えませうございませう」
五郎兵衛の取次を聞いて要「それは珍客だ、千葉氏が見えたかまづ病室に案内致せ」
五「畏まりました」
要介は竹刀をすて、居間に戻ると間もなく千葉周作先生は十八九になる美しき女子を伴れてそれに參つた、秋山は床の上に座してゐた

要「オー左様か、女性にして劍法を學ぶとは今の世には珍らしい事だ、シテ手前に聞ふことがあるとはそれは如何なる事か」
周「靜枝、其方より秋山先生にお話し申すが宜い」
靜「左様ならば申上げます秋山様あなたは上杉浪人長谷部傳藏の行方を御存知な由、當時彼は何處に居りますか、それをわたくしに洩して下さいまし」
と云はれて秋山は靜枝を暫く見て居つたが
要「長谷部の居所を聞く爲に千葉氏と與にこれへ參られたか」

日は道場へ出て一本立合

五「それはいけません、お身體に障ります」
要「身體を損じて死ねばそれまでの壽命、幸にまだ半身だけは利く左の腕は役に立つ、今日は俺が代稽古を

て其竹刀から今にも電光がほどはしるかと思はれるやうに活氣がある、前に廻つた門人は打を入れる事が出来ず、すくんでしまふ
要「どうだ打てぬかな」
○「恐れ入りました、先生に向ふと身震へて來ま

要「これは、ようこそ御入來下された、御覽の如く病の爲に半身不隨、それゆゑお訪ねもいたさなうだが先づは御健勝にて祝著至極」
周「御病氣と承りお見舞かた、お尋ね申す一儀あつて參上いたした、これは粗末なる品にはござるが御覽に供する」
それへ出したは金水引のか、りました菓子折
要「有難く受納いたす、時に千葉氏御同行なされしこの婦人は」
周「拙者手許にて劍術を學び居る里見靜枝と申す者にござる、其許の高名なるを聞きお目通りいたし且はお尋ね申す事あつて同道いたしてござる」

市原醫院
平町 田町
電話 二一四番

貸切の●●●
御用命は！
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平南町(電話一七〇番)
大和田醫院

冬の通學服
原料高に逆行した
英斷的の特價提供
黒小倉長ツボン付
一年生用 八十五錢ヨリ
弊店特製
一年生用 一圓五十錢ヨリ
モリタヤ洋品店
平五丁目 電話 353

金銀高價買入
東京(り)商店
出張所 旅館 會津館
平驛前(元平劇場跡)
電話 六四八番
御一報次第社員參上有利に御相談も致します。